

科目名	労働経済学B				
英語科目		ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n) を参照		
開講期	秋学期	開講学部等	経済学部	配当年次	2年次
教員名	東 雄大			単位数	2単位

授業概要／Course outline

労働経済学は、「働くこと」を取引する「労働市場」の機能を分析する応用経済学の一分野です。人々は何時間働くのか、企業は何人雇い入れるのか、賃金はどのように決まるのかといった私たちの生活にも関係する問題を分析します。また、労働政策や社会保障政策の効果を検証することも重要な課題です。この授業では、各テーマの理論を解説するとともに、その理論が本当に現実の世界を描写できるのか、政策はどのような効果を持つのかをデータを使って検証する実証分析についても解説します。

秋学期は、労働環境、学校教育、年齢と賃金、女性差別の問題、結婚と家事・育児の分担、失業や職探しといった応用的な内容を扱います。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

講義

- ・ICTを活用した授業（形態：クリッカー、タブレット端末、スマートフォン等を活用した双方向型授業／遠隔教育（ビデオ・オン・デマンド等））
- クイズやアンケートによる双方向型授業を行います（Formsを利用予定）。
- オンデマンド授業のリンクはmoodleに掲出します。

授業内容・授業計画／Course description・plan

第1回 労働経済学Aの復習

労働経済学Aで学んだ労働者の効用最大化、企業の利潤最大化、及び労働市場の均衡について復習する。

第2回 補償賃金格差1：2タイプの仕事の労働市場

労働環境の違いによる賃金格差について、2タイプの労働環境に分けて説明する。

第3回 補償賃金格差2：ヘドニック賃金関数

労働環境の違いによる賃金格差について、様々なタイプの労働環境に一般化して説明する。

第4回 学校教育1：人的資本理論

学校教育は人的資本への投資であるという理論について説明する。

第5回 実証分析の方法：回帰分析入門

実証分析の方法の1つである回帰分析の基礎的な考え方について説明する。

第6回 学校教育2：教育の収益率の実証分析

教育の収益率をデータから推定する際の問題とその解決策について説明する。

第7回 学校教育3：シグナリング理論

学校教育は労働者の能力に関するシグナルの役割を果たすという理論について説明する。

第8回 企業内訓練

企業内訓練と年齢や勤続年数による賃金上昇の関係について説明する。

第9回 労働市場における女性差別1：嗜好による差別

偏見といった嗜好による女性差別が引き起こす男女間賃金格差について説明する。

第10回 労働市場における女性差別2：統計的差別

偏見がなくても発生する女性差別とそれによる男女間賃金格差について説明する。

第11回 結婚と家事・育児の分担

結婚したカップルによる家事・育児と労働市場での労働の分担について説明する。

第12回 失業1：失業のタイプ

発生要因別の失業のタイプについて説明する。

第13回 失業2：失業のメカニズム

失業のメカニズムとして、賃金の下方硬直性とジョブサーチ理論について説明する。

第14回 まとめ

これまでの内容について復習する。

★オンデマンド 課題の解説

第5回及び第10回の授業終了後に出题される課題の解説動画（各45分程度）を各課題の提出期限後に配信する。

事前・事後学修／Preparation and assignments

〔事前学修〕moodleで配布する講義資料を読み、疑問点を整理する。

〔事後学修〕講義資料の空欄を自分で埋めるとともに、確認問題を解いて復習する。 ※各授業に対する事前・事後学修は合わせて約180分を目安とし、合計で2,700分程度とする。									
授業の到達目標／Expected outcome	・現実の労働市場における現象や政策に関心を持ち、そのメカニズムを「経済学的知識・教養」に基づき考えることができること。 ・データを用いて理論や政策効果を検証する方法を「経済学的思考方法」に基づき考えることができること。 ・現実の労働市場において解決すべき問題を「論理的かつ多様な視点から」考えることができること。								
身につく資質・能力／Competencies to be attained	<table border="0"> <tr> <td>・思考力</td><td>専門知識・専門技能</td></tr> <tr> <td>・幅広い教養</td><td>【経済学部 経済学科】</td></tr> <tr> <td>・主体性</td><td>・応用理論</td></tr> <tr> <td></td><td>・政策分析能力</td></tr> </table>	・思考力	専門知識・専門技能	・幅広い教養	【経済学部 経済学科】	・主体性	・応用理論		・政策分析能力
・思考力	専門知識・専門技能								
・幅広い教養	【経済学部 経済学科】								
・主体性	・応用理論								
	・政策分析能力								
履修上の注意／Special notes, cautions	・Moodleを通じて配布する講義資料をもとに授業を行うので、事前に入手してください。 ・「経済学入門Ⅰ」と「経済学入門Ⅱ」を十分に復習してから受講してください。 ・「労働経済学A」の内容を前提に授業を行うため、履修済みであることが望ましい。								
評価方法／Evaluation	課題：10%×2回（提出期限後にオンデマンド授業で解説します） 定期試験：80%								
教 材／Text and materials	参考書： 阿部正浩（2021）『基本講義 労働経済学』新世社 川口大司（2017）『労働経済学：理論と実証をつなぐ』有斐閣 中室牧子・津川友介（2017）『「原因と結果」の経済学：データから真実を見抜く思考法』ダイヤモンド社 宮本弘暁（2018）『労働経済学』新世社 Borjas, George J. 2023. Labor Economics, 9th Edition. New York: McGraw Hill								
質問や相談の方法／Instructor contact	オフィスアワー、メールアドレスは授業で連絡します。 授業に関する質問や相談などがある場合は、オフィスアワーに研究室へ訪問するか、メールで質問してください。 オフィスアワーを利用する場合は事前にメールで予約してください。								